

第 11 講 ギリシアにおける青銅器文明の終焉

1. 青銅器文明の終焉についての諸学説

突然死説

ドーリス人侵入説

ドリス人反乱説

海の民犯人説

気候変動説

地震説

大規模土壌流失説

連続的文明移行説

2. 粘土版史料から明らかになっていること

文明の危機を直接示す証拠はない

ピュロス王国の粘土板：

最後の瞬間まで正常な日常業務

宮殿所属の女奴隷への食糧分配

決して不十分ではない

畑の作付け状況：

k.ke-ke-me-na における不耕作地

若干の粘土板

異常事態は解釈のレベルの問題

Jn.829：青銅原料の鍛冶工への分配

一人当たり余りにもわずかな量

a-ta-ra-si-ja の鍛冶工も多い

o-ka 文書：海岸地帯への兵員の集中配備

pu-re-u-ro への船 1 隻派遣

これらとて決定的ではない

3. 反証

Jn.829：

na-wi-jo を naos (神殿) でなく、naus (船) と解釈

問題の青銅は神殿に蓄積されてきた青銅の総量でなく、偶々入港した船から荷揚げされた青銅を示している。

O-ka 文書：

Hooker が指摘しているように日常の訓練を示しているに過ぎないという

解釈も可

外部からの危機を証明するものではない

4. 考古学資料

文明の崩壊は明白

LHIII B2 末期：

前 1200 年頃の火災による宮殿や城砦の破壊

ミケーネ、ティリンズ、デンドラ、ベルバティ、ピュロス等

問題：突然死なのか、衰弱死なのか、それとも変化なのか？

5. ドーリス人侵入説

古代ギリシア人の伝承：

トゥキュディデスの証言：トロイ戦争から 80 年後にドーリス人の移動

ヘラクレスから 3 代後のヘラクレイダイの帰還とドーリス人、アイトリア

人、アイオリス人の南下

ピュロスのネーレイダイ（ペイシストラトス家等）のアテーナイ亡命の伝

承

古典期における方言群の分布

西方方言群：アイトリア方言、アイオリス方言、ドーリス方言の空間的ま

とまり

東方方言群：イオニア方言、アルカディア・キプロス方言の分布の広がり

↓

各方言集団の移動を想定

城砦や宮殿の破壊の跡の存在

鉄器や火葬の出現：ドーリス人に持ち込まれる

1960 年代まで支配的学説